

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第135回本部会議 記録

日 時／令和4年12月7日（水）

15：30～15：53

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部第135回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧ください。まず、スライド1です。主な指標の状況について、昨日、12月6日時点ですが、新規感染者数は、全ての地域で今週先週比が1を下回っておりますものの、人口10万対では、札幌市926.7人、札幌市を除く地域で895.8人、全道で907.5人と、いずれの地域も高い水準で推移しております。また、病床使用率ですが、札幌市は58.4%、札幌市を除く地域が57.6%、全道で57.9%と、いずれの地域もここ数日増減を繰り返しております、引き続き、50%を超える状況が続いております。

続いて、スライド2です。各圏域の状況ですが、新規感染者数の先週比が、十勝圏を除き、1を下回っております、病床使用率は多くの圏域で増加傾向が続き、特に、札幌市を除く道央圏、また、道北圏、道南圏では、過去最高を記録するなど、高い水準が続いております。

続いて、スライド3、総評1です。全国の状況です。全国では、新規感染者数の増加傾向が続き、多くの地域で先週比が1を上回っております、本道はこれまで、10万人当たりの新規感染者数が全国最多であったものの、先月30日以降は、他県が全国最多となっております。

医療提供体制です。病床使用率は、ここ数日増減をしておりますものの増加しております、札幌市も概ね同様の傾向にある中、地域では、札幌市を除く道央圏や道北圏、道南圏で高い水準となっており、重症病床使用率は減少傾向ではありますが、ここ数日は増加しております、10.3%となっております。

感染状況です。新規感染者数は、先週比で先月24日に減少に転じた後、概ね2週間減少傾向が続いております、人口10万人当たりの新規感染者数は、先月22日に直近最多となって以降、減少傾向となる中、今月5日には、この夏のピークを下回る水準となりまして、また、年代別では、30代以下の割合が減少し、約5割となっているほか、その他の年代の割合が増加し、60代以上が2割を超えております。なお、コメ印の本道でのインフルエンザの状況ですが、直近のデータであります先月21日から27日までの定点報告によりますと、7名が感染、1定点あたりは0.03人と、流行入りの目安を下回っている状況でございます。

続いて、スライド4、総評2です。今後の対策です。新規感染者数は減少傾向にありますものの、病床使用率は高い水準で推移しております、今後、旅行や帰省など、人の移動が活発となる年末年始を迎えるため、高い感染レベルをできる限り引き下げていくよう、引き続き、感染対策の再徹底やワクチン接種の速やかな検討など、基本的な感染防止行動の徹底と対策の強化について、呼びかけてまいります。

保健医療提供体制の強化に向け、確保病床については、12月中旬を目途に各医療機関の

意向確認を進めておりまして、引き続き、必要な病床確保に向け、更なる調整を進めてまいります。

また、季節性インフルエンザとの同時流行の可能性を踏まえた「外来医療体制整備計画」は、今月2日、国との協議が整いまして、通常の診療可能数を超える患者数に対応するよう、自己検査は、今月1日から、「北海道陽性者登録センター」、「北海道健康サポートセンター」、「北海道健康相談センター」の人員や回線を強化しましたほか、医療機関の診療可能数は、診療時間の延長や、かかりつけ患者以外への対応などの診療協力をいただくなどしながら、取組を着実に推進してまいります。なお、スライド6に参考としまして、「外来医療体制整備計画」の概要を載せておりますので、後ほど、ご参照いただければと思います。

続いて、スライド5、総評3です。年末年始は、人との接触機会が増えるため、こうした時期に、特に注意が必要となる場面や場所における道民の皆様への呼びかけの検討を進めますほか、休診・休業となる医療機関や無料検査登録事業所が多くなるため、関係団体とも連携し、体制の確保に向けた働きかけを行いますとともに、主要な交通拠点における検査体制の確保や効果的な広報の検討を進めてまいります。

次に、オミクロン株対応2価ワクチンですが、多様な媒体を活用する集中的広報を通じ、幅広い層に向け、速やかな接種の検討を呼びかけますほか、10月以降、ノババックスワクチンなどの1、2回目接種を行った方は、3回目以降の接種時期が年明け以降となりますので、そうした方々がオミクロン株対応2価ワクチンを円滑に接種できますよう、市町村と連携しながら接種体制を確保してまいります。

また、今月2日、感染症法が改正され、この改正では、新型コロナの位置づけを速やかに検討することも盛り込まれたところをございまして、こうした検討は、これまで、全国知事会とも連携しながら、医療費や予防接種に係る公費負担の取扱いを含め、国の考え方や進め方を示すよう、求めてきたところをございまして、国は、専門家の意見も聴きながら、公費負担のあり方も含めて、総合的に検討を進めていくとしておりまして、今後の動向について、十分に情報収集を進めてまいります。

続いて、スライド7以降について、何点か主要な動向等を補足説明いたします。

スライドを少し飛ばしまして、スライド19をご覧ください。右側の棒グラフのとおりですが、30代以下の感染者数が大きく減る一方で、その他の世代は減り幅が小さく、また、左側の円グラフのとおり、引き続き、30代以下の割合が最も高いものの、その割合が下がってきておりまして、50.5%。その一方で、60代以上の割合は、22.2%と、増加傾向が続いております。

次に、スライド20をご覧ください。集団感染の発生です。集団感染の発生は徐々に減少傾向にありまして、医療施設、福祉施設ともに、減少しております。

続いて、スライド21をご覧ください。ワクチン接種ですが、上段の表、オミクロン株対応2価ワクチンの接種ですが、5日現在、VRSベースで約117万4千人、接種率は22.7%と全国を上回っておりますものの、このうち、65歳以上は、約50万7千人、接種率は30.3%と全国を若干下回っている状況にございます。下段の表の下の枠、小児の接種率です。1回目22.2%、2回目21.1%、3回目6.6%となっております、なかなか接種が進まない状況が続いております。

続いて、スライド22をご覧ください。道のワクチン接種センターですが、ノババックスは、現在、今月18日までの予約を受付中でございまして、全ての日程で空きがある状況に

ございます。また、オミクロン株対応の2価ワクチンは、道民の皆様から、高い関心をいただき、既に、年内の予約枠を満たしておりまして、接種を希望される方は、会場や日程など、お住まいの市町村にお問い合わせ願うよう、呼びかけているところでございます。

その他のスライドについては、本日の説明に関するデータや情報でございますので、後ほど、ご覧いただければと思います。資料1の説明は以上でございます。

引き続きまして、資料2をご覧ください。先ほどの資料1「道内の感染状況等」について、専門家、有識者の皆様のご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしてございます。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見をいただいております、その内容をご紹介しますと、1「新規感染者数は若干減少しているものの、感染者数が多い状況は変わらないので、年末年始に向けて、引き続き、感染対策を継続するよう、道民の方々をお願いしていただきたい。」、2「同居の子供等から感染する機会が増えていることから、家庭内感染に注意する啓発もお願いしたい。」、3「クラスターが発生した高齢者施設で、有効な対応策を講じるほか、必要な病床確保に向けた調整作業を速やかに進めていただきたい。」こうしたご意見が寄せられております。これらの面につきましては、今後の対策の参考としてまいります。

説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に札幌市の感染状況等について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして、札幌市の感染状況についてご説明いたします。それでは、最初のスライドをご覧ください。市内の医療機関等から報告されました新規感染者の1週間の合計についてでございますが、昨日時点では18,169人。市の人口10万人当たり換算いたしますと926.7人と減少が見られておりますが、依然として高い水準にございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。市内の入院患者数でございますけれども、黄色い棒グラフで示しておりますが、確保病床数を上限として算出した人数につきましては、直近では427人となっております。直近では概ね横ばいでの推移となっておりますけれども、医療機関によっては依然として多くの入院患者に対応していただいている状況でございます。

また、要介護の高齢者を受け入れる病床も9割以上が使用されているなど、医療への負荷がかかる厳しい状況が続いておりますけれども、札幌市保健所と医療機関で連携をとりながら、市内医療提供体制の維持に努めているところでございます。

なお、札幌市ではこの度のレベル分類の見直しを契機といたしまして、12月1日分から、コロナで療養されている実際の入院患者数を参考数値とし、確保病床数を上限として算出した国基準での数値を病床使用率として公表することとしております。

年末年始を迎え、人との接触の機会も増えてくることとなりますが、感染拡大を防ぎ、医療への負荷を抑えながら、社会経済活動を進めていくためにも、基本的な感染対策の徹底とワクチン接種が重要と考えております。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部、振興局から、順次発言をお願いいたします。まず、胆振総合振興局長お願いいたします。

【谷内胆振総合振興局長】

資料4に基づきまして胆振管内の感染防止対策の取組について報告いたします。はじめに管内の感染状況についてですが、全道の傾向と同様に11月に入って感染が再拡大し、感染者数の週合計が8月のピークと同水準にまで至り、11月22日には一日当たりの新規感染者数が764人と過去最多を更新したところであります。12月に入りましてからは減少の兆しも見られるものの、依然として高い水準が続いています。また、11月は医療機関や社会福祉施設でのクラスターが9月や10月と比較しまして2倍近い件数で発生したほか、学校におきましても休校や学年・学級閉鎖の件数が大幅に増加しており、集団感染の増加傾向を踏まえた対応も必要となっているところであります。

こうした状況を踏まえまして、振興局では、これまでの基本的な感染防止行動の徹底について、市町や団体等と連携し、住民の皆様や事業者の方々へ、ホームページやSNSなども活用しながら、広報活動を行ってきておりますが、旅行で管内を訪れる方も増加してきている中、道の駅など観光関連施設にポスター掲示の協力依頼を改めて行うなど、感染対策の再徹底に取り組んでいるところであります。また、学校に対しましても、校長会の場を活用して、胆振教育局から冬季の感染対策の徹底について依頼するなど、注意喚起を図ったところであります。

次に、医療機能等の維持強化等についてであります。保健所職員が管内の医療機関を訪問し、感染状況を共有するとともに、病床確保や新型コロナ・インフルエンザの同時流行に対する備えなど、今後の医療体制維持に向けた意見交換を実施したほか、高齢者施設等の集団感染発生施設に対しましては、保健所や社会福祉課による継続的な相談対応や、衛生資材の支援に加え、感染予防対策の徹底や検査体制の確保などの必要な体制整備について要請をしてきているところであります。

また、ワクチンの接種促進につきましても、振興局庁舎のロビーにモニターを設置し、来庁者に向けた広報動画を放映しているほか、大型商業施設や、大学・専門学校、あるいはカラオケ、ゲームセンター、ボウリング場といった娯楽施設などを職員が直接訪問し、オミクロン株対応ワクチンの広報ポスターの集中的な掲示につきましても協力依頼をしたところであります。

さらに、年末の忘年会シーズンを迎える中、第三者認証の取得を一層促進するため、商工会議所や商工会との連携のもと、未登録店舗を訪問し取得を呼びかけたほか、商工会議所会報へのチラシ折り込みや、飲食店へのポスティング、さらには地方新聞への広告掲載などの様々な取組を継続して行っており、8月以降も新たに127店舗が認証を取得いただいたところであります。

これからの時期、クリスマスや忘年会、帰省など、人の動きが活発になる時期となりますことから、振興局としましては、住民の皆様が万全の体調で良い年末を迎えられるよう、引き続き、市町をはじめ、関係機関と連携し、感染対策に取り組んでまいります。

以上であります。

【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局等からご発言ございませんか。なければ本部長からお願いします。

【本部長（鈴木知事）】

本日の道内の新規感染者数は、7,764人。ここ2週間は概ね減少傾向が続いております。人口10万人当たりでは、本日は870.9人ということでありまして、人口10万人当たりは800人台という状況になってまいりました。こうしたことから、新規感染者数は、11月22日の人口10万人当たり1138.9人、これをピークに減少に転じた可能性があると考えてます。全国的に見ても本道の感染者は、11月29日まで35日間、全国最多という状況が続いたわけですが、現在は他県が全国で最多という状況になってます。病床使用率については57.9%と、増減はあるものの、増加という状況になっています。また、重症病床使用率は10.3%と、ここ数日は増加が見られるものの、重症病床使用率については減少傾向となっています。道内の感染状況は、減少傾向に入ったわけですが、依然として新規感染者数は高い水準になっています。病床使用率は、新規感染者数の減少に遅れて減少し始めるというこれまでの経験を踏まえたと、年末年始の時期を前に、もう一段感染レベルを引き下げて、医療への負荷を低減していかなければなりません。このため、各本部員、地方本部員においては、医療のひっ迫を回避し、社会経済活動をできる限り維持していくため、基本的な感染防止行動の徹底と対策の強化について、市町村や関係団体と連携して呼びかけるようお願いいたします。

これから年末年始を迎えるわけですが、人との接触の機会が増える時期になります。こうした時期に必要な道民の皆様への呼びかけを速やかに検討するよう、指示をいたします。また、医療機関や無料検査登録事業所に向けて、年末年始の体制確保を働きかけるとともに、無料検査の効果的広報についても検討するようお願いいたします。

現在の状況におきましては、引き続き、保健医療提供体制の強化に取り組んでいく必要があります。必要な病床の確保に向けた調整を進めるとともに、現在、インフルエンザが流行している状況にはないわけですが、今後の同時流行に備えて、外来医療体制の確保に万全を期すようお願いいたします。

ワクチン接種についてであります。今月は、オミクロン株対応ワクチンの接種がピークになります。この時期にできるだけ多くの方に接種していただけるよう、集中的な広報を強化し、幅広い層に向け、速やかな接種の検討の呼びかけをお願いいたします。

また、接種時期が年明けの1月以降となる方に向けて、必要な体制が確保されるよう、市町村への支援や道の集団接種会場の活用を含めて、具体的な検討を加速するよう指示をいたします。

最後であります。この度、感染症法が改正されました。今回の改正では、新型コロナウイルスの位置づけについて、速やかに検討することも盛り込まれています。こうした検討については、これまで全国知事会とも連携をしながら、医療費や予防接種に係る公費負担の取扱いを含め、考え方や進め方を示すよう、国に求めるとともに、道としても直接国に対して要請をしてきたところであります。国は、専門家の意見も聴きながら、公費負担のあり方も含めて総合的に検討を進めていくとしております。今後の動向について、十分に情報収集を進めるよう、指示をいたします。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いいたします。
以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部第135回本部会議を終了いたします。

（了）